



今月のトピック「中国のFintech概況及び注目すべきFintech50社の公表」

はじめに

KPMG Fintech50について

KPMGインターナショナルでは毎年「FINTECH100」と称し、全世界を対象にFintech分野で真に革新的な企業を「リーディング50」と「エマージング50」に分けて選定し、全世界に向けて発表している。

近年Fintech分野の成長が著しいKPMG中国においても、2016年より中国Fintech企業の中から50社を毎年選定・発表し、中国のFintech分野の健全な成長を促進するとともに、タイムリーな情報を発信している。

中国Fintechを取り巻く環境と動向

金融科技(Fintech)3年発展計画(2019-2021年)が公表され、Fintech 1.0時代からFintech 2.0時代へ

2019年8月に中国人民銀行は金融科技(Fintech)3年発展計画(2019-2021年)を公表し、中国政府のITによる金融業の発展を重視する姿勢が鮮明になるとともに市場の注目もこれまで以上に高まっている。

Fintech 1.0時代は需要主導による発展であったと言えるが、2.0時代はFintech管理体系やインフラの改革、レベルアップを前提とする供給主導型の発展である。当該計画の中で特に重点課題とされているのは次の6分野である。(下図も参照のこと)

- Fintechの戦略的配置の強化
- Fintechの合理的応用の強化
- 金融サービスの能力増強によるサービスの質及び効果の向上
- 金融審査・監督能力の引き上げ
- 金融リスクへのFintechによる対応能力の引き上げ
- Fintechの基盤サポートの充実化

Fintechのエコシステムの多層化と多様化の特徴

中国の巨大Fintech企業の特徴として、独自の技術力や顧客基盤の強さなどにに基づき、業界全体の金融サービスプロバイダーとして台頭してきたことが挙げられ、これらの企業は新たに台頭するFintechへの投資や買収を継続的に実施する強力な能力も併せ持っている。

多くのアーリーステージのFintech企業はニッチセグメントに目を向け、金融サービスの空白地帯や顧客が潜在的に痛みを抱える領域での発展を追求する一方、伝統的なテクノロジー企業は自社の持つテクノロジーに依拠してFintechを加速し、伝統的な金融機関は自社の持つ伝統的な顧客層という優位性及び金融に対する深い理解や堅牢な技術的基礎を背景にキャッチアップを加速している。

このように、中国におけるFintechのエコシステムは、先進企業と新興企業、金融機関とテクノロジー企業、多様化と集中、応用と技術が共存する、高度なイノベーション活力を有するという特徴を呈している。

重点課題



Fintechの戦略的配置の強化

- 計画統括の強化
- 制度メカニズムの最適化
- タレントプールの強化



Fintechの合理的応用の強化

- ビッグデータを活用した科学的プランニング
- クラウドコンピューティングの合理化
- 人工知能の着実な応用
- 分散型データベースの研究開発アプリケーション強化
- ネットワーク個人認証システムの完備

金融サービスの能力増強によるサービスの質及び効果の向上



- 金融サービスへのアクセスの拡大
- 金融商品供給の改善
- 金融サービスの効率化
- 社会に資する金融サービス提供能力の強化
- 企業の与信・融資サービスの最適化
- テクノロジーを駆使した決済サービスのステップアップ



金融審査・監督能力の引き上げ

- 金融技術規制の基本ルール体系の確立
- 規制の一貫性の向上
- 監督能力の浸透強化
- 健全なイノベーションマネジメントの仕組の確立



金融リスクへのFintechによる対応能力の引き上げ

- 金融業務におけるリスク防止能力の強化
- 金融サイバーセキュリティリスク管理の強化
- 金融情報の保護強化
- 新技術金融アプリケーションのリスクへの予防策



Fintechの基盤サポートの充実化

- Fintechの協業取組み強化
- 法規制強化の推進
- クレジットサービス支援の役割強化
- 標準化の推進
- 金融消費者の権益の保護強化

**各領域における発展動向**

「中国Fintech50」では、Fintechを総合金融テックおよび決済、デジタルクレジット、革新型銀行及び銀行Fintech子会社、保険テック、証券・ウェルスマネジメント・キャピタルマーケット、基盤技術の7領域に分けて選定、分析を行っているが、本稿ではその中でも特に革新型銀行及び銀行Fintech子会社と決済分野に焦点を当てて動向を紹介する。

【革新型銀行及び銀行Fintech子会社：4社が選出】

革新型銀行の先進性は依然アドバンテージも競争は激化し、優良な銀行Fintech子会社はマーケットの重要な新規参入者となり見通しは良好

この1年の間に中国の大部分の銀行は自身のビジネスの革新・変革を図るためFintechの推進と深化を加速させており、AIBANK（百信銀行：中信銀行と百度により設立）やWeBank（微衆銀行：テンセントなどにより設立）に代表される「革新型銀行」が連続して選出されていることは注目に値する。

革新型銀行は「小規模、新モデル、迅速なイノベーション」を主な特徴としている。投資家（株主）より得られるリソースと絶え間ない技術革新に裏付けられたビジネスモデルのイノベーション、低コストの経営モデルにより、マーケットにおいて一定の差別化された競争優位性があるが、伝統的な銀行の改革に向けたコミットメントと行動を無視することはできない。様々なタイプの伝統的な銀行が過去にない速度と深度において、技術革新により自身の仕組みを最適化させる変革に取り組んでいることには注意が必要である。今後の1年において、革新型銀行は一部領域において業界におけるリードを維持するが、チャレンジに直面する機会は増加すると思われる。

一方、過去1年の間に、より多くの銀行がFintech子会社を設立し、成長の本筋の中で新たな境地を探り、突破口を開く努力を行っている。多くのFintech子会社は今のところ特徴やビジネスモデルを打ち出せておらず、親会社である銀行との協働やマーケットにおけるポジショニング、差別化等をより進めていく必要があるものの、銀行のFintech子会社は、従来のFintech会社にはない優位性、例えば親会社銀行の地位、金融の本質への理解と把握、銀行実務に関するテクノロジーへのリッチな経験やタレントプール等を有している。銀行系Fintech子会社は今後も増加を続けると見られ、見通しは良好である。

【決済分野：4社が選出】**デジタル決済技術の後半戦、イノベーション能力は衰えず**

デジタル決済の分野では、長年の発展を経て決済手段の競争には決着がつきつつあり、成長スピードは緩やかになりつつある。デジタル決済の後半戦においては生体認証やIoT、AIといった新たな技術を用いたシチュエーションに応じた決済の競争となり、現在オフラインで行われている決済まで貫くような真の決済技術の変革が求められている。

デジタル決済は生体認証の最も重要な応用シチュエーションの一つである。生体認証の技術的な利点、例えば、高速認証や高度ななりすまし防止能力等により、「自然のパスワード」を提供し、本人確認の問題を解決することができる。スマホの紛失やサイバー攻撃、身元詐称を防止できるのみならず、決済のプロセスを簡略化・効率化し、安全性と利便性を合わせて実現することができるなど、デジタル決済の分野での幅広い応用が期待されている。生体認証の技術は、モバイル決済の分野以外でも、決済の壁を取り払うことが期待されている。例えば、スマホ内の全ての決済媒体から解放され、各決済シチュエーションにおいて、生体識別のデバイスが顔、声紋、歩容認証といった生物学上の特徴に基づく生体認証を行うといったものである。

IoT技術は、銀行口座とデバイスのIDを結びつけることで決済のデジタル進化を加速させ、あらゆるものを決済できるようにすることが期待されている。我々の生活は、IoT決済の普及シナリオの中でも先進的なものであり、IoT決済技術が最も価値を発揮する可能性が高い分野である。ウェアリングでは、スマホやスマートウォッチなどの感覚決済ツールに加え、靴や衣服などにセンサーを埋め込み、足による決済を試みる企業も出てきている。食品や飲料では、IoTはスマート家電にセンサーデバイスを埋め込むことにより自動で注文を行う、または無人のスーパーマーケットでのRFID※により決済を行う。日常生活においては電気・水道メーターの公共料金と居住者のアカウントを紐づけ、定期的な支払いを可能にする。外出先では、車のナンバーと銀行口座を紐づけ、駐車場、高速道路の料金所、ガソリンスタンド、洗車場などで、既にセンサーレスでの自動決済が可能になっている。※RFID（radio frequency identifier）一般的にパッシブタイプのICタグのみを指して用いられることが多い。

本稿では紙面の関係から、KPMG中国がFintech50の選定とともに公表しているインサイトの一部内容の紹介に限られるが、Fintech時代において銀行に求められる役割も変わりつつあり、邦銀にとっても示唆深い内容であると思われる。

以上

KPMG中国 上海事務所
グローバル・ジャパニーズ・プラクティス



林田 弘徳
GJP中国 FS リードパートナー
 Tel: +86-21-2212-2286
 e-mail: hironori.hayashida@kpmg.com



和氣 周平
GJP中国 FS マネジャー
 Tel: +86-21-2212-3143
 e-mail: shuhei.wake@kpmg.com